丸紅メイト

総合ソリューション企業へ

海外展開も視野

ユニフォームの製造・販売・レンタルを手掛ける丸紅メイト（東京都千代田区）は3月、香港系投資ファンドCLSAキャピタルパートナーズ（以下、CLSA）がアドバイザーを務めるサンライズ・キャピタルの傘下に入る。CLSA日本総責任者の清塚徳氏と共に本紙の取材に応じた岸晴彦社長は、「総合ソリューションサービス企業として次の成長を目指す」と語った。

岸社長は、丸紅からサンライズ・キャピタルへの株式譲渡に対して公正取引委員会から排除措置・課徴金納付命令を受けたことについては無関係で「指導は真摯（しんし）に受け止め、既に再発防止を徹底する体制は確立できた」と前置きした上で、「国内レンタルユニフォーム市場にはまだ伸びる余地があるが、その条件を十分に生かせていなかった」と分析。「成長を加速させ、次の段階に進むためには新しい枠組みが必要」と、豊富な経験や広範なネットワーク、経営資源を持つCLSAグループと組む意義を強調した。

CLSAの清塚氏は丸紅メイトを「企画・生産・販売にとどまらず、ICタグを活用したレンタルやクリーニングなど優れた機能があり、さらなる成長の可能性を秘めている」と評価する。業界再編や中華圏など海外展開も視野に入れて、支援していく考えを示した。

今月にも新社名を決める。4月以降、新会社は現在の組織体制や既存取引先との関係を維持しながら、核となる国内ユニフォーム事業の強化を進める。次の段階ではユニフォーム以外の領域でもソリューション業務を広げる。

サンライズ・キャピタルはヤング向けアパレル、バロックジャパンリミテッドへ投資し、中国の婦人靴SPA最大手ベル・インターナショナルなどとの資本・業務提携を経て、東証一部上場の基盤を築くなど、アパレル分野でも実績を残している。投資先からは報酬を得ず、キャピタルゲインだけを得る手法を採る。